

題求

本月中旬大峰三坑の組合員實松猛君等来り同坑が程度の労働強化をやり糶當と喰べ十分の時間と與へず其上野損の目多くて全坑夫間に動揺を來し居り四村の者調印を取りて待過改善の要求をなす計畫立てるからう應援を乞ふと依頼した。格りて、田川地方支部連絡委員会の本君其準備を進めて居る折柄十六日西部鉱山労働組合の指導にて大峰一坑に争起り馬に炭坑の警戒嚴重となり遂に計畫を察知され調印者は納屋外に監禁されは至りた。而して二十日飯場の獨身者土名飛出りて、委員会事務所集合す。新聞通報により本部より米援一坑天符出に努むるも警戒嚴重なりて成功せず、又も得ず同日附録の歎願書を出すと共に川崎の本通りに争闘本部を設け

戦闘準備を進める。二十日炭坑の回答に據るに何等要領を得ず誠意の一片もなきたため直ちに要求書を送付し、争闘本部の看板を揚り各地方支部連絡委員会に飛電本格的に争闘せよ。同夜直ちにピラ隊を組織し聲明書(附録四)を撒き翌朝附録四のピラ及四の傳單を貼り大塚全坑に働きかけ、精力的に争闘を展開するに炭坑は争闘の擴大を恐れて暴刀團を符出して警戒に努む。更らに同日より二十四日かけ附録四のピラを撒き検査者十名を出す。二十四日、後藤寺署の中丸特高主任調停に入り川崎村重藤旅館に於て従業員代表實松猛、外入組合代表宮崎主事森本勇氏、炭坑側と會見遂に条件にて解決し、五時争闘本部は解散を行ふ。